

ランダムファイル

ランダムファイルでは常にあなたの原稿を募集しています。テーマはロックに絞る必要はなく、幅広い視野からの切り口を期待しています。400字詰め横書き原稿用紙に、1行18字で、またタイトルは10字以内、原稿の枚数上限は3枚（3枚以上の原稿はミキシングで掲載）をお願いします。住所・氏名・TELを明記の上、編集部ランダムファイル係までどしどし投稿して下さい。

LIFE WITH THE ROCK File 24

美容師/泉 克久

●このコーナーは、ミュージシャンでなくても、ロックに携わる仕事や活動をしているロックな人にスポットを当ててみたいと思う。そう、ロックと共に生活している方々です。

INTERVIEWED: 相川和義 [3月27日/高円寺一年生]

JR阿佐ヶ谷駅から徒歩5分ほどの場所に、¥1000カット ジブシーウエイ阿佐ヶ谷店がある。店内にはかつての美容室時代に紹介された雑誌の切り抜きが張られている。「謎のバンク美容室」「潜入高円寺 流行のバンク製造工場」「レスラーの髪型を真似したいならアーナーキーにいきやがれ!!」そう、唯の¥1000カットの店ではなく、かつてバンク美容室として名を轟かせたアーナーキーを経営していた泉氏が高円寺店に続き、オープンさせた店なのだ。

▶美容師になって初めて持った店がアーナーキー?

「そう。25のときだから18年位前。それまでは原宿宿りも含めて3ヶ月刻みであちこちで働いてた。その頃は女性がワンレングスばかりで面白くなかったんですよ。で、自分でやりたいようにやろうと思って高円寺(中野区大和町)に。最初、理容の学校入ったんだけど間違えたんですよ(笑)。免許取って理容は女が出来ないっていうんで、美容の免許取ったんですよ(笑)。専門学校時代、理容も美容もバンクスは全然いかなかったです」

▶バンクとの出会いはいつ頃だったの。

「僕は中学2~3年の時にビストルズから入って、それからアーナーキー聴いてました。横浜銀蠅とかプラスチック・高校まで日本のバンドを主に聴いてましたね。たぶん髪型の方が好きというか、興味があつたんですよ。確か「ギンザナウ」というTV番組で近田春夫がバンク・ヘアーやってるのを見て、それをやりたいって自分でもやって、人にもやりたくてって感じですかね」

▶受けた衝撃が音よりヘアー・スタイルの方が大きかったと…。

「そう。いろんなバンドのCDジャケットに写っているメンバーのヘアー(スタイル)の方が気になりましたよ。高校の頃、ほんとにバンドのギターやりたかったんですよ。ギターを持った瞬間にこれは出来ない。でも、自分の髪の毛を切るハサミを持った瞬間出来ると思って」

▶いつ頃から普通の美容室としてオープンした店がバンク専門に変わっていったの。

「アーナーキーって名前付けちゃったから、勝手に店が走り出しちゃいますよね。口コミで初期バンクもハードコアごちゃ混ぜで徐々に広がっていったという感じ。あの頃はバンド・ブームで雑誌社やテレビ局が面白いものないかと探し回っていた中で、いろいろ取材が来るようになり名前も知れたし。バンドと呼ばれライブ・ハウスにモヒカンしに出張もしましたね」



▶その後、閉店して94~95年に福島県郡山でスティッフ・リトル・フィンガーズをオープンさせるんだよね。

「腱鞘炎になってアーナーキー出来なくなって閉めたんです。腱鞘炎も治り、新たに郡山で店をスタートしたわけ。でもバンクスがなかったから客の高校生集めてバンク・バンド(ビジャス・リベンジ)作ったんですよ。最後の方は馴染んで毎日温泉とか行ってる楽しかったんだけど、かみさんに仕事見切りつけて東京に戻ると言われて…(笑)」

▶居たのは約1年位でしたよね。

「こっちに戻って来て、金がいいっていうんで赤坂見附で1,000円カットに勤めだしたんですよ。そしたらそれが性に合うんですよ。その店見てて設備とか金掛かるんだろうと思ってたら、次に勤めた所は内装凄えちゃく作って、あつ!これなら出来るわと思って(笑)。それで資金が貯まったんで沼袋に1,000円カットのチープトリック出したんです」

▶バンクにしてもヘアー・スタイル年代と

共にとどろんと変わって来ているでしょ?

「そう。僕が今追求しているのは、早い、安い、上手いですから。普通は嫌なんでしょうね。普通の1,000円カットだったらある程度収入見込めるけど、普通じゃない1,000円カットを作ったってどうなるのかなって感じですかね。今バンク・ヘアー的にいえば少ないでしょうね。食えないですよ。バラけちゃって、最近はどう坊主ですね。坊主だとバリエーション買われたら終わりなんで、僕は3(ミリ)・2・1とボカすんですよ。そこにプロのテクニクを見せるんですよ(笑)。いろんなタイプのヘアー・スタイルに合わせるのには、1,000円カットは適しているんですよ。バンド、プロレスラー、お笑い系芸能人と客層は幅広いですよ」

▶2004年にジブシーウエイ高円寺店、昨年11月チープトリックを開業、今年3月阿佐ヶ谷店をオープン。

「ジブシーウエイの由来は、プロレスラーの邪道・外道から貰ったんですよ。邪道・外道がプロレス団体を渡り歩く時の名前なんです。もう新日本(プロレス)辞めないうって言うんで、じゃ俺に頂戴と。我こそはジブシーウエイって事ですよ。同級生で茂木というプロレスラーがいて、その関係で邪道、外道、非道、折原なんかの髪やりでしたんですよ。僕はジャン・ホセ田が一番好きでした」

▶店内で流している音楽1,000円カットになってもバンクかけてますけど、普通のお客の反応はどんなの?

「最近アドバーツとか昔のばかりかけてますね。音楽はいろんな人間からこんなのがいいって言われて、それをかけて…垂れ流しになってます。おじさん、おばさんが来ている時にハードコアかけてるととどろんヴォリュームが下がり、最後聴こえなくなっちゃうんですよ(笑)。最近買ったのはラモーンズのベスト(笑)」

▶ジブシーウエイでは美容師1名募集中。履歴書郵送で166-0002 杉並区高円寺北2-12-6まで。

